令和5年度　府立園部高等学校　学校経営計画（スクールマネージメントプラン）（　計画段階　・　実施段階　）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果（〇）と課題（▼）	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
【教育方針】 ※真理を求め正義を愛する心身の健全な人となること（健全） ※進取敢為の性と明朗闊達の風とをもつ人になること（明朗） ※敬愛と誠実の心をもって社会に生きる人となること（誠実） 【教育目標】 Global&Aware（世界へ、思いやりをもって） 【教育指導の重点】 1　中高一貫教育の充実 2　特色ある学校づくりの推進 3　学力の充実と進路希望の実現 4　生徒指導の徹底 5　人権教育及び道徳教育の推進 6　国際理解教育の推進 7　教育相談及び特別支援教育の推進	【成果】 〇コロナ禍で、感染防止対策を講じながら内容を工夫し、ほとんどの学校行事を実施することができた。 〇オーストラリアの姉妹校であるキングス校とオンライン交流を実施、セントフランシス校と手紙のやり取りをするなど、交流活動を継続できた。 〇総合的な探究の時間で行った教育活動やパフォーマンス課題を他教科の授業で、その手法を活かすことができた。 〇定期的にスクールカウンセラーも含めた教育相談会議を開催し、情報共有に努め、個々の生徒への対応を検討し、組織的にバックアップできる態勢を強化できた。 〇トイレの改修に合わせて洋式化、乾式化ができた。継続して校舎の改修工事を行い、学習環境の改善ができた。 【課題】 ▼目標として募集定員を満たすことを掲げていたが、結果的に定員を満たせなかった。小中高との連携を強化し、地元の生徒が本校に目を向ける機会を増やし、本校の特色や在校生の様子を知ってもらい、効果的な広報を検討する必要がある。 ▼本校の特色である国際理解教育において、留学生の受入や海外留学への参加等が実施できなかった。今年度は、規制が緩和され留学生の受入を行う予定であるが、長期の中止期間が再開に影響する不安が残る中、海外高校生との交流を成功させる必要がある。	【育てたい生徒像】 『主体的に学び考え、多様な人とつながり、新たな価値を生み出し、社会に貢献する生徒の育成』 1　充実した学校生活 (1) わかりやすく、知的好奇心を高める授業及びＩＣＴを活用した授業を通じた学力向上への取組の推進 (2) 探究活動及び国際理解教育の充実 (3) 楽しい学校行事や部活動の運営と、それらに生徒が主体的に取り組む態度の育成 (4) 社会生活で必要となる資質・能力を身につけるための指導・支援 (5) 安心・安全を感じられるホームルーム運営と信頼できる担任・教職員との関係の構築 2　地域に信頼される開かれた学校 (1) 積極的な情報公開・情報交換による中学校や地域との連携の推進 (2) 様々な学校教育活動の様子がわかり学校の特色が見える広報の展開 (3) 地域の力を教育活動に取り入れるとともに地域の活性化を推進

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価		成果と課題　　次年度に向けての改善点
組織・運営	中高一貫教育の充実	高等学校と附属中学校がさらに連携を深め、6年間を通した指導計画及び指導体制のもと教育内容を充実させ、附属中学校の志願者増を目指す。	C	C	2	来年度以降、6年間の中高一貫教育の見直しを検討し、中高一貫コースのカリキュラムや特色を充実させるための準備を始めた。広報に関して、例年より活動範囲を広げたが結果的に志願者増には繋がらなかった。
	国際理解教育の推進	オーストラリア姉妹校等との連携強化、来日受入を再開し、来年度以降に計画しているオーストラリアへの語学研修の準備を進めるとともに、探究学習を柱とした「園部式グローバル教育」を推進する。	B	B		コロナ禍でストップしていた国際交流活動が再始動し、オーストラリアの姉妹校であるキングス校の留学生のホームステイ受入を行い、充実した交流活動が実施できた。来年度、本校の生徒がオーストラリアへ語学研修に行く準備を計画的に進め、現時点で実現できる可能性が高い。Area Studyに関しても京都産業大学と連携し、理系分野も含めた12回の特別授業を計画し、実施した。
	特色ある教育内容の発信	パンフレット、ポスター、ホームページ、For the FUTURE、学校説明会等を十分に活用して、園部高校の魅力ある情報を発信し、募集定員を満たす。	B	C		学校説明会において、体験授業や部活動体験、生徒による学校説明を実施し、広報の在り方の見直しは一部できた。一方で、結果的に募集定員を満たすことができなかった。今後は、南丹市の中学校からの志望者が低迷しているため、通学圏内の中学生の志望状況を分析しながら重点的に効果的な広報の在り方を検討する必要がある。
学習支援	学習習慣の定着	予習・授業・復習等、日々の学習を通して家庭学習や自主学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図るとともに、継続させる。	C	B	4	生徒の習熟度に応じて、特に学習が苦手な生徒に対して個別対応で基礎学力の定着に努めた。課題として、家庭学習や自主学習の習慣については二極化が進み、習慣が継続できない生徒についてきめ細かく指導したが、学習効果が上がるところまで繋げられていない。
	学力の向上の取組	コースの特色に応じた課題を設定し、言語活動を充実させるとともに、コミュニケーション能力の向上を図り主体的に学習に向かう姿勢を養う。	B	B		コースの特色に応じて、一部の教科で少人数講座や習熟度講座を展開し、きめ細かい指導ができた。パフォーマンス課題や言語活動を必要に応じて行い、評価に活かしたり、生徒のコミュニケーション能力の向上に繋げたりすることができた。今後は、これらの取組が生徒一人一人の主体的な学びに繋がるようにしていきたい。
	新学習指導要領に即した授業改善	パフォーマンス課題の効果的な設定や観点別評価を意識した授業を計画し、授業改善に繋げる。	B	B		各教科の評価方法について、教科会議を通して大学教員からの助言を受ける機会を設け、パフォーマンス課題や評価の在り方について研修を実施することができた。今年度限りの取組とならないように、今後も継続して評価方法を見直したり共有したりできる機会を設けていきたい。
	ICT教育の充実	BYODに対応したタブレットの有効な活用を進めるとともに、わかりやすく、知的好奇心を高める授業を通して学力向上を図る。	B	B		各教科でタブレットやICT器機を効果的に利用する場面が増えてきた。ロイロノート等を活用して、課題提出や授業内の意見交流等を行い、双方向の取組が徐々に進んでいる。今後は、デジタルサイエンスやデータを活用した探究活動等を充実させていきたい。
生徒支援	基本的な生活習慣の確立	複数回の朝の遅刻や授業の無断欠課に対して個別指導を行い、規則正しい生活習慣が身に着けられるよう指導し、落ち着いて授業を受けられる環境をつくる。	B	B	4	校則の詳細を教員間で情報共有し、共通理解のもと教員全体で統一した指導が行えるよう工夫することができた。一方で一部頭髪指導等の身だしなみの指導は、教員間で基準を揃えることが難しく、今後改善が必要になるケースも見られた。生徒も納得して校則を守り、規則正しい生活習慣が身に付けられるよう指導していきたい。
	生徒指導の徹底	問題事象や問題行動の未然防止と早期発見・早期対処ができるよう教職員の指導体制づくりを進め、適切な指導を行う。	B	B		いじめ等、生徒間トラブルの訴えに対して迅速、かつ組織的に対応することができた。また、問題事象を教員間で共有するため、適宜、生徒指導会議やいじめ対策会議を開いた。その成果として、おおむね教員全体で生徒指導ができる体制を構築し、改善を進めることができた。
	教育相談・特別支援教育の推進	教育相談会議を中心に、個別の生徒の支援を検討し、改善に繋げる。また、必要に応じて積極的に外部機関と連携し、支援が円滑かつ効果的に進むよう努める。	B	B		月に1回教育相談会議を開き、必要に応じて臨時でケース会議や教育相談会議を行うことでタイミングを逃さずに指導することができた。個々のケースに対応するため、支援学校との連携や医療連携を行い、支援の方策を多角的に計画し、実施することができた。一方で、個別対応が必要なケースが増加傾向にあり、より効果的な支援を行うための改善に取り組む必要がある。

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価		成果と課題　　次年度に向けての改善点
進路支援	コースの特色を踏まえ、個に応じた適切な進路支援	生徒の状況や課題を踏まえ、進路に関わる行事や説明会等を適切なタイミングで計画し、最大限の効果が得られるように実施する。また、模擬試験や各種アセスメントのデータ分析を行い、適切な進路指導に繋げる。	B	B	4	模擬試験やスタディサポート、学びみらいPASSを始めとした各種アセスメントの結果を分析し、学年部や教科担当者と情報共有することで到達目標と現状とを客観的に捉えることができ、進路指導に有効に活用することができた。
	生徒の主体的な行動を促す進路支援	多様な進路に対応する情報を収集し、生徒一人一人がこだわりを持った主体的な進路選択ができるよう、その実現を図る支援を充実させる。	B	B		3年生については個々の生徒の進路希望に合わせて、全体での説明から個別指導まで柔軟に対応した。1、2年生については早期からキャリア意識を醸成する様々な取組を行った。
	高大接続、新入試制度研究の継続	今後も変化する入試制度や高大接続が円滑に進むよう最新の情報収集を行い、生徒・保護者等に発信する。	B	B		令和7年度から導入される新課程入試に向けて、教員研修を行ったり、生徒への情報提供を行ったりした。就職・進学希望者ともに今後ますます求められる社会人基礎力の養成に向けて一層、取組を充実させていく必要がある。
人権教育	人権教育の推進	多様な生徒の背景に目を向け、すべての生徒の人権を守り、生徒の学びを支援する。また、人権学習を通して、現在の人権問題の知識をつけさせるとともに情報を正しく判断できる力を身につけさせる。	B	B	2	コロナ禍以前のように対面で講師による講演会を予定通り実施できた。1年生の人権講演会は、新しい講師による講演を実施することができた。授業や特別活動、日々の学校生活のあらゆる場面で、人権を尊重する心を育むという視点で教育活動を展開できた。
	人権意識の高揚	すべての教育活動を通して、人権を尊重する心を育む。また、多様性を認め合える意識の醸成を図る。	B	C		例年通り生徒向けの人権学習、教職員向けの人権研修を実施できたが、より効果的で充実した研修を企画立案し、実施することができなかった。
図書館活用	読書活動啓発のため、広報や図書館行事の企画運営を効果的に行う。	授業・調べ学習・学校行事等で活用できる資料の収集と提供を行う。また、図書委員会を中心としたイベントの企画運営を行い、図書活用を促す図書資料の紹介広報に努める。	B	B	4	「図書館だより」を発行したほか、図書委員会にて「おすすめ本紹介イベント」を行うなど、読書活動の啓発に努めた。今後も図書室と図書資料の価値を広報して、活用をさらに進める必要がある。
健康・安全教育	健康教育の充実	本校生徒の健康課題（体の健康と心の健康）に応じた健康教育を推進する。	B	B	4	学年の状況に合わせた健康学習を実施することができた。来年度の健康学習をさらに効果的に実施する上で必要な講演等を計画、準備する必要がある。
	感染症対策の継続	感染症に関する正しい知識を共有し、教育活動のあらゆる場面で注意喚起を行い、校内でクラスターの発生を起こさないよう努める。	A	A		コロナ対策は徐々に緩和したものの、コロナ禍で実践していた教室内の換気や手指消毒は徹底して行った。コロナやインフルエンザ等感染症の校内での感染拡大を防ぐことができた。
管理	企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営を行うよう企画、立案を行い、生徒募集に繋がるような適時、適切な予算執行に努める。	B	B	4	効果的な学校運営について、適切な時期に必要な予算措置ができた。日常業務の他、学校行事にも丁寧に対応できた。一方で、生徒募集に繋がるところまでは至らなかった。
	学校環境の整備	老朽校舎の改善対策と、必要な備品の充実、校内美化に向けた対策と実行に努める。	B	A		老朽校舎の丁寧なメンテナンスと必要物品、設備の充実に向けて対応できた。長寿命化工事の中、生徒や教職員に負担をかける場面もあったが、調整を行う中で、適切に工事を進めることができた。校内美化についても計画的に樹木せん定等を進められた。
家庭・地域連携	家庭や地域社会との連携の強化	家庭・地域社会との適切な連携に努めると共に、小高・中高・高大連携の充実を図るとともに地域の活性化に向けた取組を行う。	B	B	4	パートナースクール事業（英語小高連携）、Area Study（高大連携）、南丹幼小中高連中高連携授業等の実施により、関係機関との連携を深めることができた。また、緊急時の家庭連絡や、南丹市警察や南丹市子育て支援課等の連携も必要なタイミングで適切に行うことができた。
学習環境 安全管理	安心・安全で充実した教育活動のための施設設備の充実	校舎や設備の安全を確保し、生徒の学習環境の向上に繋がる施設設備の充実を図る。	B	A	4	長寿命化工事が施工できたことにより、教室やトイレ等が綺麗になり、快適な学習空間を使用できるようになった。危険箇所の修繕や害虫駆除等、適切かつ迅速に対応ができた。
学校関係者評価委員会による評価	コロナ禍の影響が大幅に緩和され、授業や学校行事等で生徒のアクティブな活動が戻ってきたことで生徒や保護者からの学校への評価が大幅に改善された。一方で、地域の少子化の影響も考えられるが、募集定員を満たすことができなかったことは課題として残る。学校の特色を活かしてさらに教育活動を活性化し、地域や通学圏の中学生に広く情報を発信し、期待される地元の公立高校として活躍することが望まれる。					
次年度に向けた改善の方向性	6年間の中高一貫教育の見直しを検討し、中高一貫コースのカリキュラムや特色を充実させると共に、オーストラリア姉妹校との交換留学や海外研修旅行を軌道に乗せ、特色の一つである国際理解教育の充実を図る。また、もう一つの特色である探究的な活動を発展させ、主体的・協働的に新たな価値を創造する力を伸ばすことで卒業後の希望進路の実現や国際社会で活躍できる人材育成に繋げる。					

評価数値の見方（後期）	
A	目標が十分達成され、効果を上げている。
B	目標が計画通り実施され、一定の効果が上がっている。
C	計画通り実施できているとは言えず、あまり効果が上がっていない。
D	実施がかなり不十分である。

評価数値の見方（総合評価）	
4	全項目がB以上である。
3	2項目がB以上である。
2	1項目がB以上である。
1	B以上である項目がない。